

# 肝疾患診療連携拠点病院 補助金・診療報酬評価に関する アンケート集計結果報告

独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター  
地域医療連携係長 有村 博治

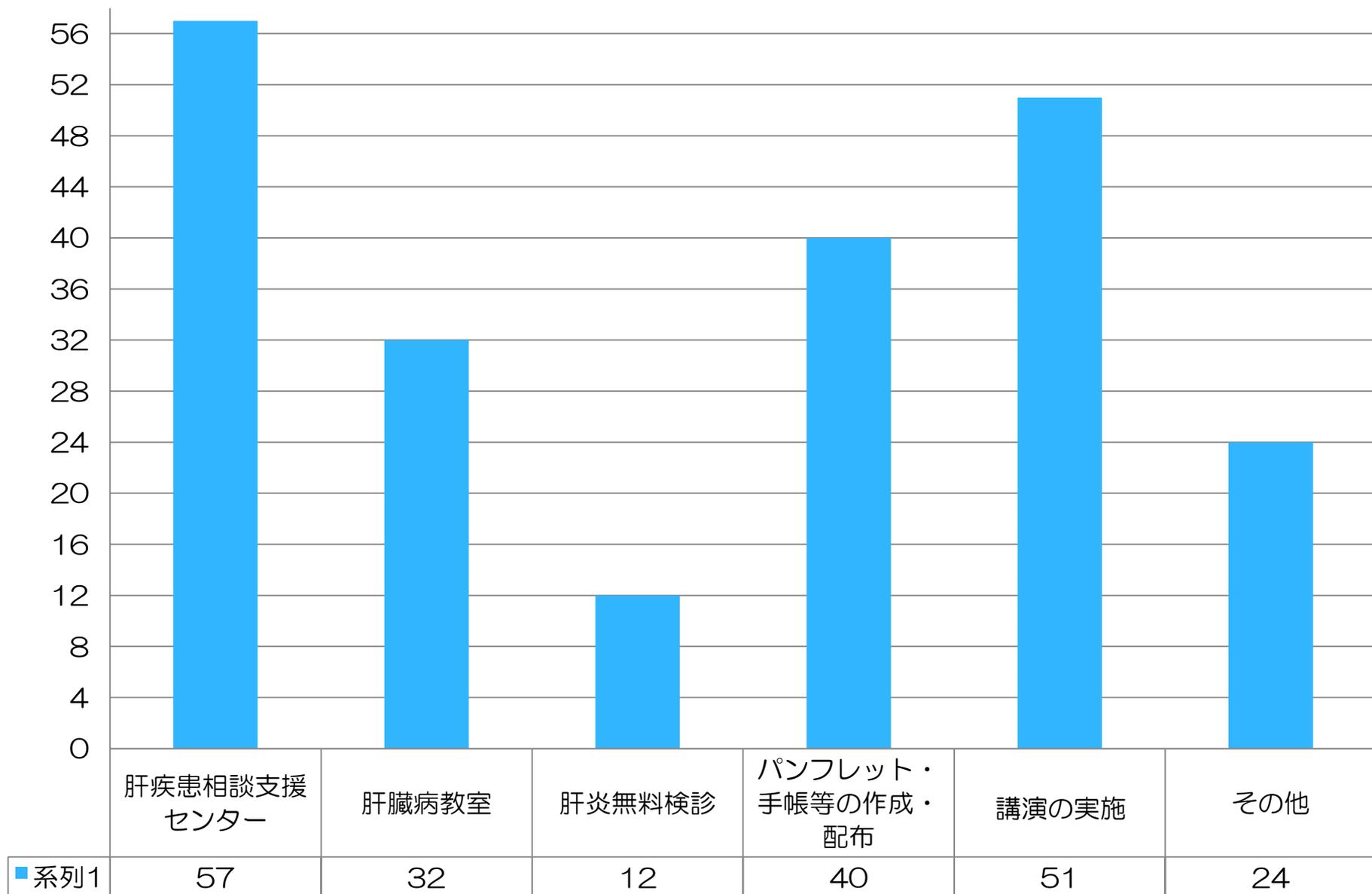
アンケート配布枚数 70施設

アンケート回収枚数 59施設  
(84%)

- 毎月 肝臓病教室実施 8職種が交代で講演
- 巡回診療による出張肝炎ウイルス検診の実施  
(累計1500名採血)
- 市民公開講座の開催
- 医療従事者向けの研修会の開催
- パンフレットの作成etc



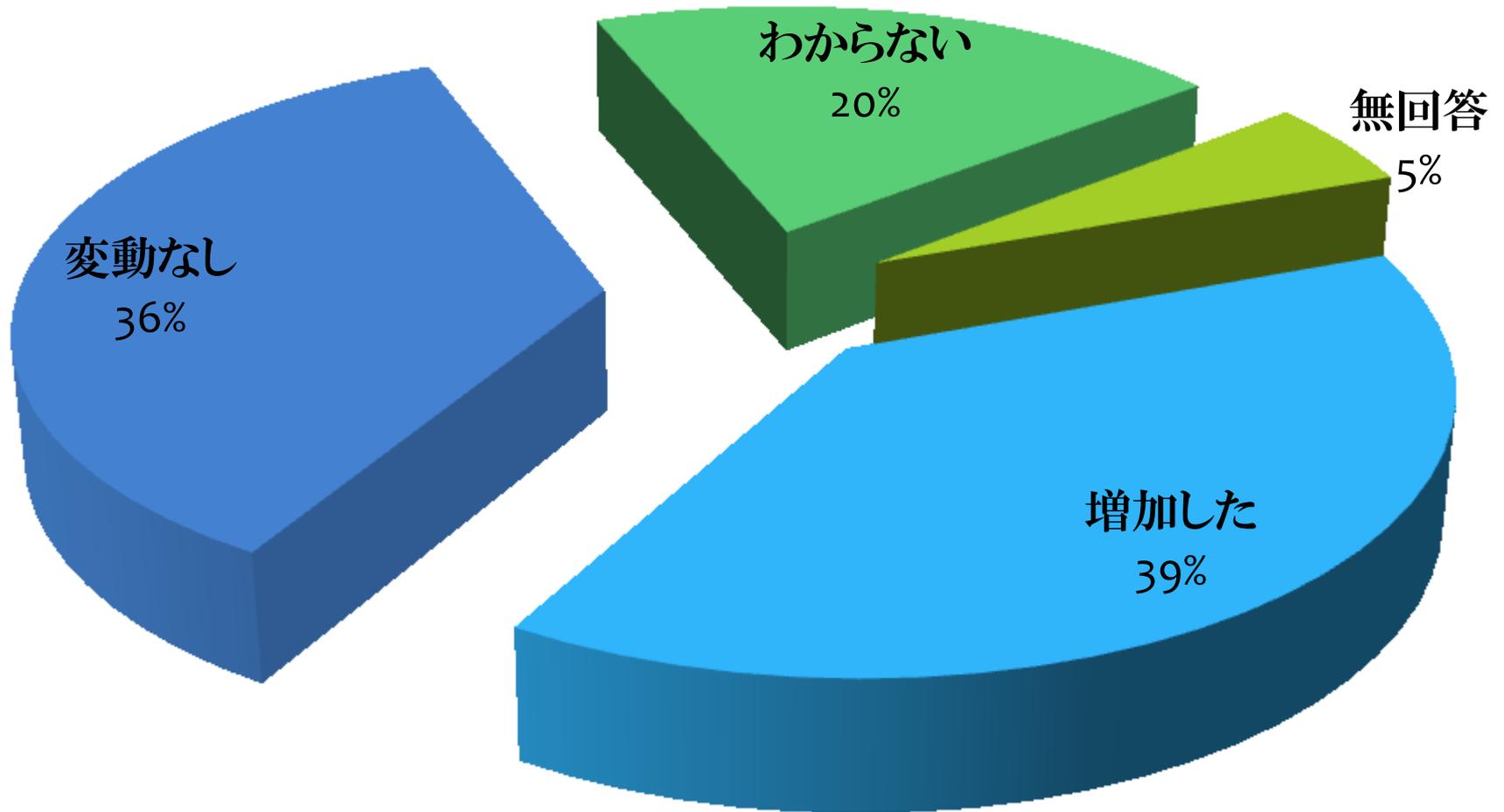
# 設問1 拠点病院としての貴院の現在の取組内容についてお答えください。



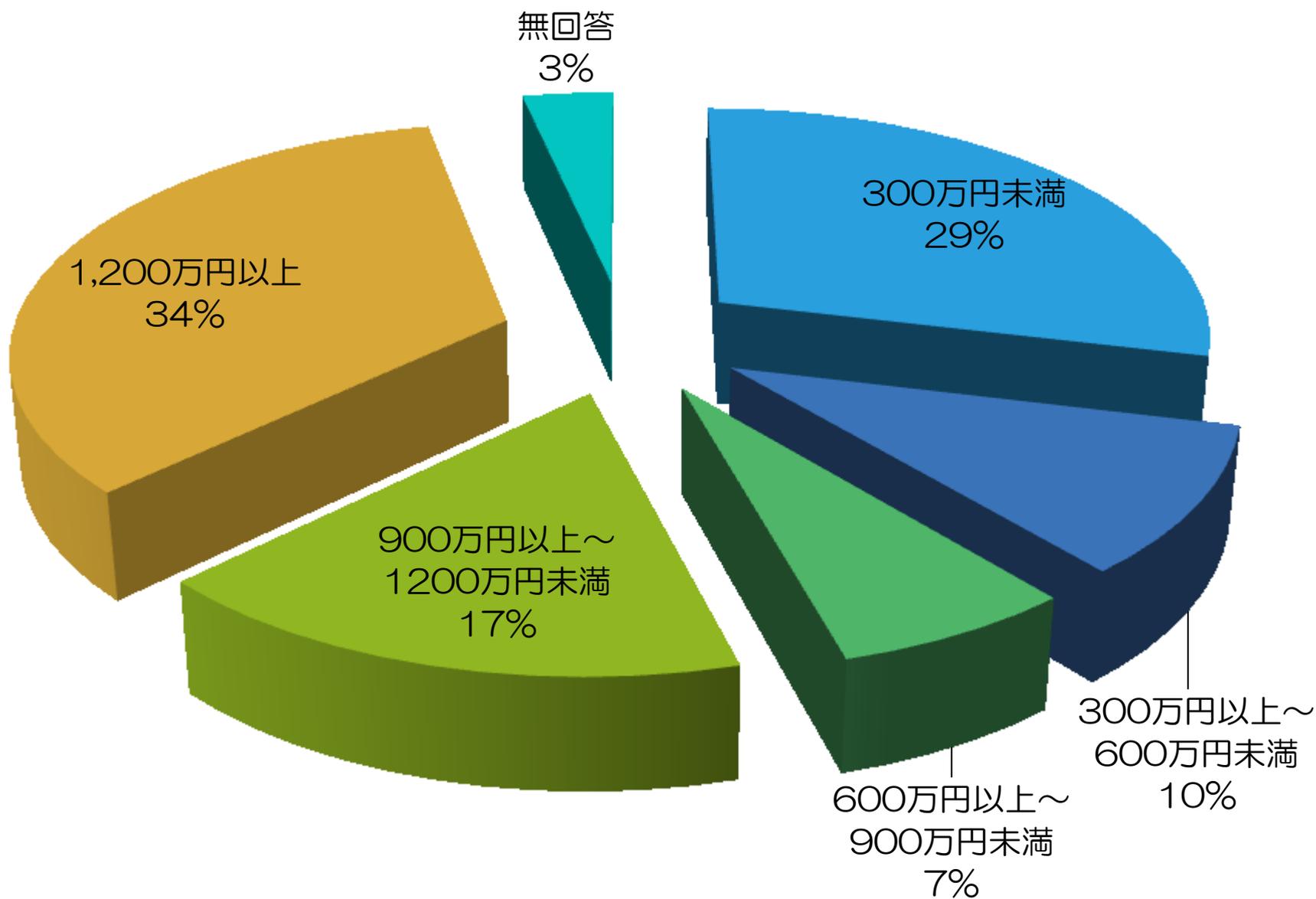
## その他の活動の内訳(多数回答)

- ホームページの作成
- 肝炎コーディネーター養成事業
- マスメディアを利用したの啓発活動
- 患者サロンの開催
- 診療ネットワークの構築

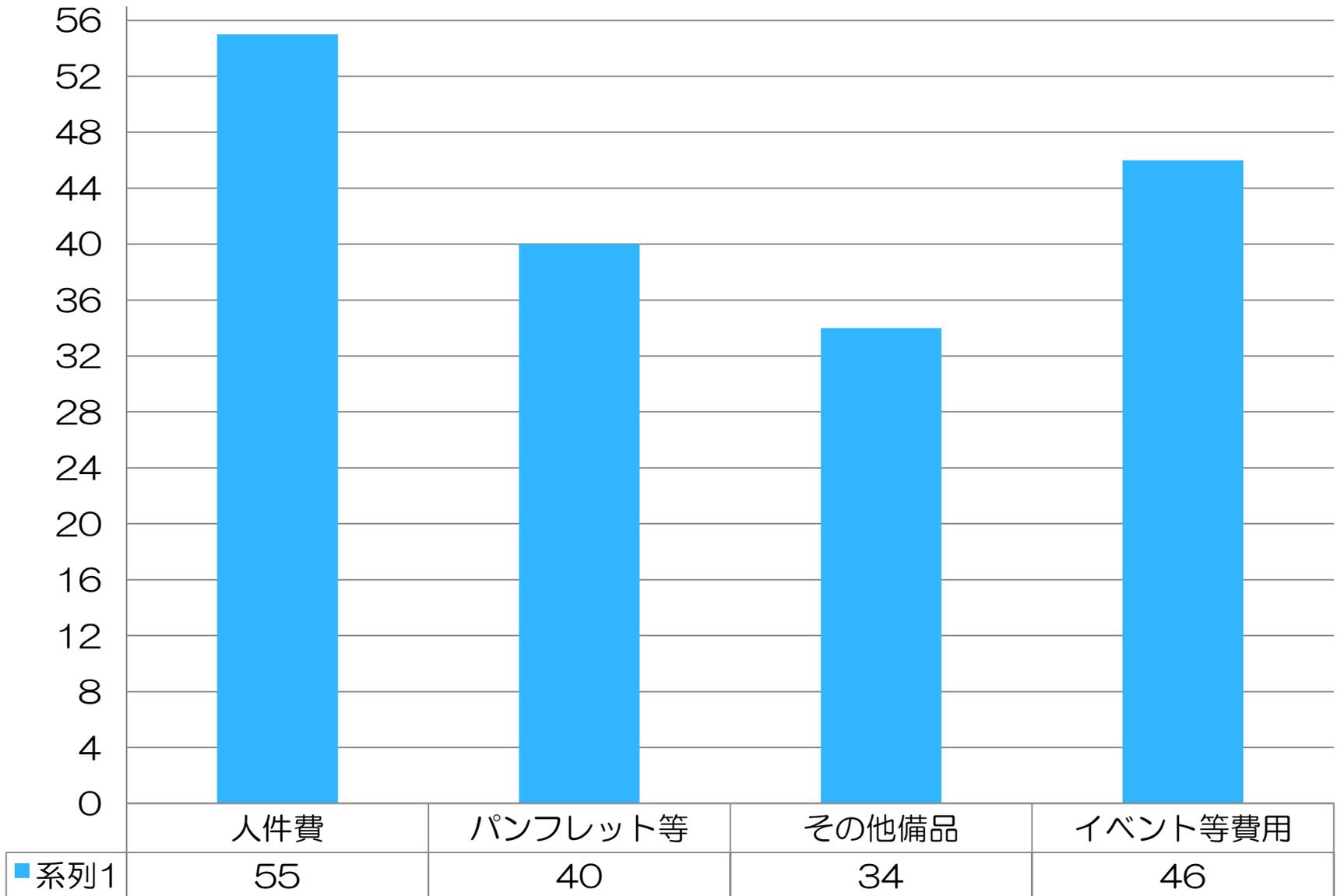
設問2 上記取組を行ったことで肝疾患の患者数は増加しましたか。



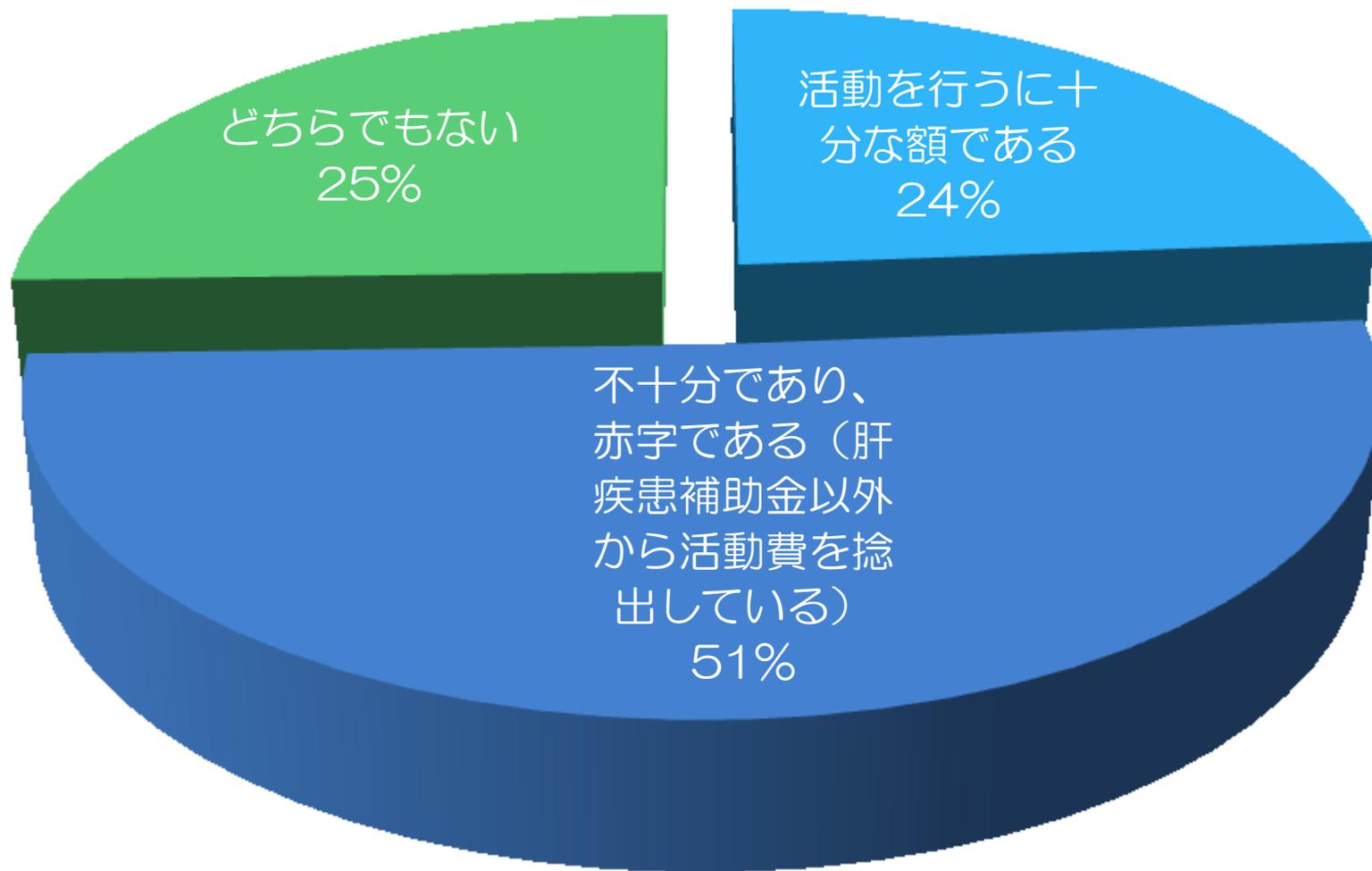
### 設問3 現在の拠点病院事業に対する補助金の年額についてお答えください。



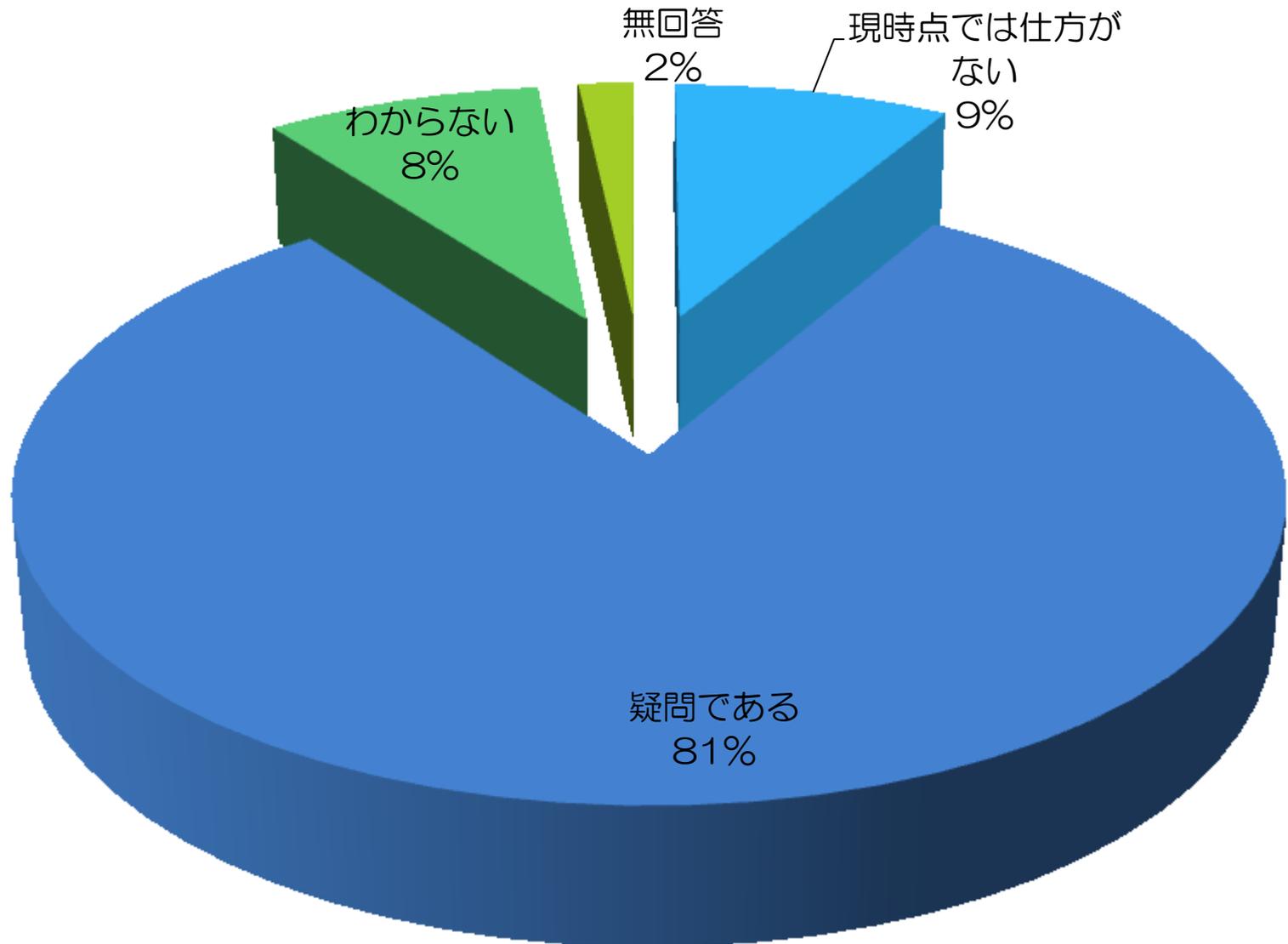
## 設問4 現在の補助金の使い道についてお答えください



設問5 現在の補助金の額についてのお考えをお聞かせください。



設問6 がん拠点・地域支援病院等と同様に多数の患者を対象とした活動をしているにもかかわらず、診療報酬的な評価が少ないことに関するお考えをお聞かせください



# 現在の診療報酬体系の比較

## 肝疾患

- 肝炎インターフェロン治療計画料 700点
- 肝炎インターフェロン治療連携加算 50点

インターフェロン治療について患者の不安の解消や利便性に配慮し、専門医とかかりつけ医との連携により治療を継続しやすくする取組を評価したもの

# 現在の診療報酬体系の比較

## がん診療

- がん治療連携計画策定料1 750点(策定料2は300点)
- がん診療連携拠点病院加算 500点
- がん治療連携管理料 500点
- がん患者カウンセリング料 500点
- 24年度改定で緩和ケアに対する診療報酬の充実

## 地域医療支援病院

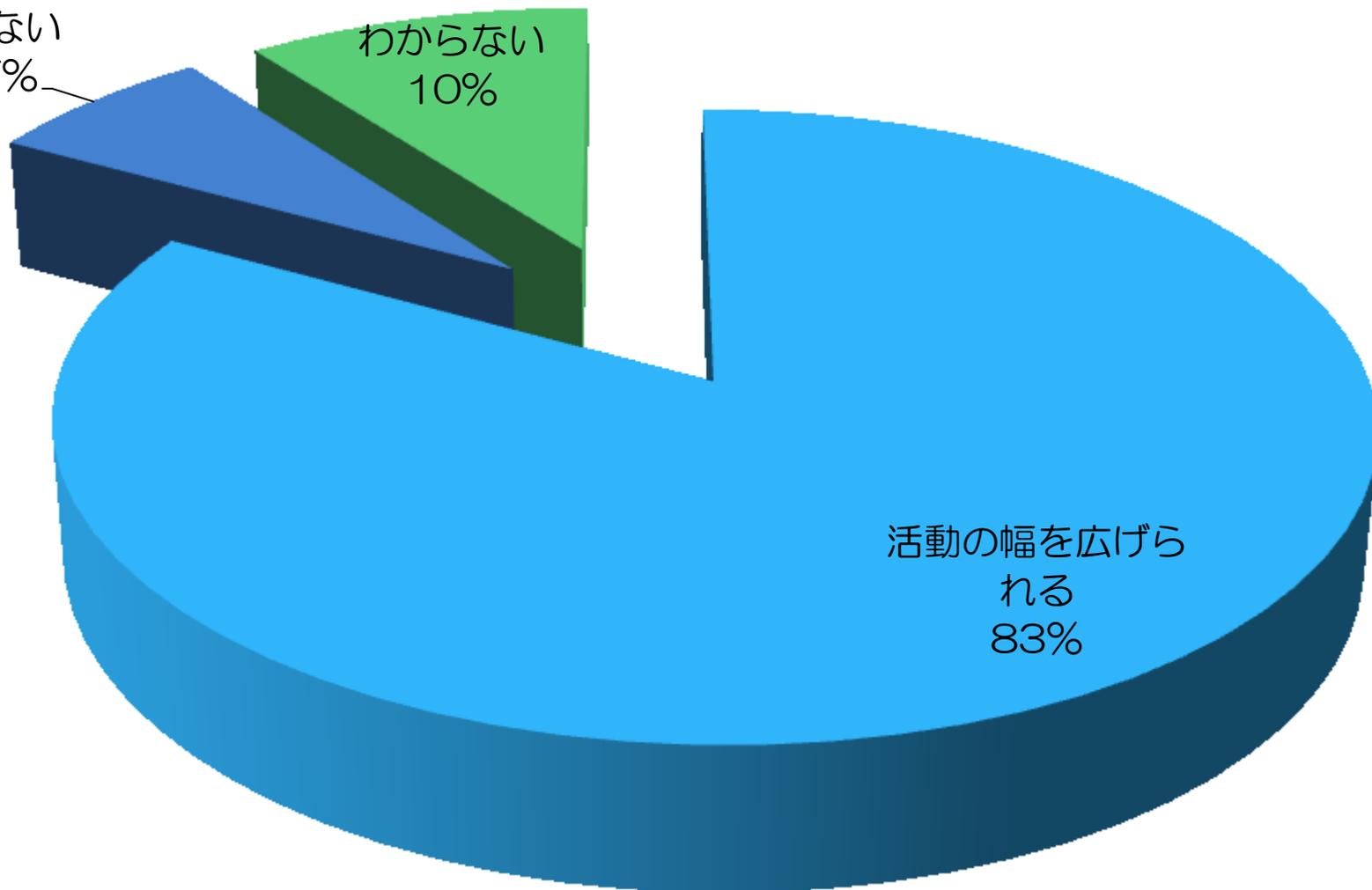
- 地域医療支援病院入院診療加算 1,000点

設問8 財源(診療報酬の評価)が増えれば  
肝疾患診療連携拠点病院活動の幅を拡げられますか

現状の活動と変わ  
らない  
7%

わからない  
10%

活動の幅を広げら  
れる  
83%



設問10 今後診療報酬的な評価を希望するものがあれば記載してください。

多かったご意見

- ① 肝臓病教室の取組の評価  
開催回数についての意見は幅広い(2回～12回以上)
- ② 肝疾患診療連携拠点病院加算  
がん診療連携拠点病院加算に倣ったインセンティブを求める
- ③ 外来診察時の加算

その他、「相談支援」に関する取組の評価、「DPC係数」を求める意見もある。

# 最後に・・・

肝疾患患者は全国に数百万人います。

我々には、その方々を救う使命があります。

しかし、そのためには診療報酬でのインセンティブが必要です。

我々の取組について評価を頂けるようご検討お願いいたします。

## 設問7 設問6において「現時点では仕方がない」と思われる理由は？

活動内容が、医療従事者向けの講習等を介して診療レベルの向上と均てん化をはかること、一般への啓発をすすめる肝臓病に対する理解を深めてもらうことなどであり、診療報酬という形では評価できないため。

肝疾患診療連携拠点病院の使命が患者・家族への情報提供、医療従事者への情報伝達、啓蒙活動といった診療ではないところへあるため。

財政面からこの程度で容認するしかない。

## 設問9 設問8において「現状の活動と変わらない」を選択された理由は？

財源だけの問題ではなく、病院内での体制づくりや人員確保を必要とするため。

活動スペースを院内に確保できない、マンパワーが足りない。

現在の肝疾患相談室が独立したセンターでなく、地域連携室の一部であるため。専任のパラメディカルスタッフを置くことが困難であるため。